令和７年度　学校評価の４点セット整理票（九重町）

2学期最終稿

九重町立野矢小 学校

令和7年　12月　24日

2月　16日（月）実施

【学校の教育目標】	ふるさと野矢を愛し、協働的な学びを通して課題解決に取り組むことができる「野矢っ子」を地域とともに育成する。
【育成を目指す資質・能力】	・他者と協働する力・課題解決能力

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	担当	資質・能力との関連 知識・技能	思考力・判断力・表現力	学び人間力・人間性等の涵養	取組指標の検証	達成指標の検証	達成率（%）	重点目標に対する評価	改善策 今後の具体的な取り組み	学校関係者評価
協働的な学びに向かう力の育成	○ 学力調査において、基礎基本問題の平均正答率を全国平均以上にする。 ○ 授業に関する児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童を70%以上にする。 ・「協調学習を通して課題について最後まで諦めずに考えることができた」 ・「協調学習を通して友だちと協力して自分の考えをもつことができた」 ・「授業がわかった」	学校	○ 生徒が主体的に学びに向かうための授業改善の実施 ・課題設定の工夫 ・ペア学習・グループ学習の推進	○ 研究主任は、研修計画に沿って、授業における課題設定に関する研修を１回以上実施する。 ○ 授業者は、目的に応じたペア学習・グループ学習を週２回取り入れる。	教務・研究・ＰＴＡ研修部担当	○			○事前研、模擬授業、事後研を通し、提案授業をもとに、課題設定に関する研修を行った。 ○「ペアやグループ学習を週2回行う」の教師アンケートでは100%であった。	○授業に関する児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童が平均73%だった。（達成率　116%） ・「自分にはいいところがある」→57% ・「自分の思いや考えをまとめることができた」→65% ・「自分の考えを伝えることができた」→78% ○2学期末の児童アンケートで、「できた」と答えた児童が64%だった。(達成率　80%) ・「運動が楽しい」→70% ・「30分体を動かすことが週4回以上」→57% ○2学期末の調査で昨年の全国平均を超える児童は、長座体前屈は39%、握力は45%だった。（達成率　73.5%）	101.9%	4	○課題設定の仕方が深められるように、単元計画表を作成し、子どもたちにペア・グループの振り返りを行わせる。（授業者は教科を選び内容を深めていく）継続して行う。	・町学力調査の結果を見て、以前はマイナスが少なかったと感じた。 ・1時間授業（45分間）集中し続けることは難しい。短いスパンの中で、積み上げていく授業づくりをしていくとよいのではないか。 ・面白い授業・あきない授業をいかにするか。児童が興味を持ってもらえる授業を構築してほしい。
			○ ジグソー法による協調的な学習の推進	○ 授業者は、ジグソー法を取り入れた授業を月１回以上実施する。			○	○	○「授業者は、ジグソー法を取り入れた授業を月1回以上実施する。」は教師アンケートでは、50%であった。				○授業者は、ジグソー法を取り入れた授業を1～3月の間に2回行う。○ジグソー法の模擬授業を体験し授業実践を行う。（実際の3学期の教材で行う。）	
		家庭	○ 家庭における生活習慣の確立の推進 【PTA研修部】	○ 保護者は、毎日家庭で宿題を行っているか確認する。		○			○「毎日宿題を行っているか確認する」について、保護者アンケートで95%が肯定的回答であった。				○ふりかえりを行い、引き続き継続して行う。	
		地域	○	○										
他者と協力し、最後まで取り組む力の育成	○ 児童アンケートの以下の項目で「できた」と答える児童を60%以上にする。 ・「自分にはいいところがある」 ・「自分の思いや考えをまとめることができた」 （・「自分の考えを伝えることができた」） ○ 児童アンケートで ・「運動が楽しい」 ・「３０分体を動かすことが週４回以上」 と答える児童を80%以上にする。 ○ 全国平均を超える児童を長座体前屈は47%以上、握力は70%以上にする。	学校	○ 自己肯定感を向上させ、他者の良さを認める場の設定	○ 担任は、野矢っ子タイムや道徳などのその他を使い、人間関係づくりプログラムを週１回行う。 ○ 自己肯定感	体育主任・生活指導・ＰＴＡ保体部		○	○	○野矢っ子タイムを使って人間関係プログラムを行い、実施率は92%となったが、一人学級で他学年と一緒にする場を設けられなかったことにより、実施回数が少ない学年があった。	○2学期末の児童アンケートで以下の項目で「できた」と答える児童が平均67%だった。（達成率　116%） ・「自分にはいいところがある」→57% ・「自分の思いや考えをまとめることができた」→65% ・「自分の考えを伝えることができた」→78% ○2学期末の児童アンケートで、「できた」と答えた児童が64%だった。(達成率　80%) ・「運動が楽しい」→70% ・「30分体を動かすことが週4回以上」→57% ○2学期末の調査で昨年の全国平均を超える児童は、長座体前屈は39%、握力は45%だった。（達成率　73.5%）	89.8%	3	○野矢っ子タイムを基本として、道徳などの授業時間を使って、継続して行う。また、週に1回できるよう計画を立てて行う。 日常生活や人間関係プログラム、人権の授業などから自分のいいところを見つけたり、友だち同士で認めあう場を作ったりする。	・体力向上面で、外遊びをしている姿は見るが、限られた児童がしている。 ・長座体前屈は九重町全体の問題で、なかなか改善ができない。 ・呼吸法などを取り入れて、リラックスした状態で運動することを意識してはどうか。 ・家庭に戻ってからの外遊びが少なくなっているのではないか。（PTAでの来年度取り組みに提案する） ・運動に関しては、経験を積む。体験をさせることが大切だ。 ・楽しい長座体前屈の取り組みをしてほしい。ラジオ体操などで自分の体と向き合うのも有効。
			○ 握力と柔軟性の向上	○ 体育主任が中心となり、パワーアップタイムや体育の授業で補助運動に週２回取り組む。		○			○体育の授業で、補助運動に週2回以上取り組むことはできたが、握力や柔軟性以外の種目をすることも多く、効果的ではなかった。また、2学期後半は、寒くなり室内での遊びが増加した。				○運動内容を見直し、継続して行う。 握力においては、「ゲーパー運動」を手首を立てて適度な負荷がかかるように工夫して徹底する。 長座体前屈においては、家でもできるストレッチの仕方を教える。	
		家庭	○ ノーメディア週間の徹底 【PTA保体部】	○ 保護者は、ノーメディア週間の徹底を図り、児童に外遊びなどで体を動かすように声かけを行う。				○						
		地域	○	○										
野矢を愛し、社会との関わりを考える力の育成	○ ゲストティーチャーの授業や社会見学を受けて、「野矢のよさを感じることができた」と答える児童を85%以上にする。 ○ 教師アンケートで、「国語以外の教科で図書館の資料や本を活用して授業を実施した」と答える教職員を100%にする。	学校	○ ゲストティーチャーや地域人材を活用した授業の促進	○ 教師は、ゲストティーチャーや地域の施設等を活用した授業を２学期に５回以上実施する。	地域連携担当・図書館教育・ＰＴＡ保体部		○		○ゲストティーチャーを招いて、または地域に出向いての学習を2学期は13回行った。野矢っ子探検隊での講演や美山高校生とのジャムづくりなど、昨年度よりも多岐にわたって活用できた。	○「野矢のよさを感じた」の児童アンケートは、低学年が83．3%で高学年が82．4%だった。平均が82．5%で、達成率は97．5%となった。 ○「国語以外の教科の授業での図書館活用」の教職員アンケートは60%で、達成率も60%だった。情報収集に、インターネットを利用することが多かった。	78.8%	3	・人材開発を進めながら、引き続き継続して行う。	・図書館にある本は「事実」に基づかれている。そのため、正しい情報に溢れている。 ・インターネットでは「ファクトチェック」が必要である。 ・複数の資料を比較するのであれば、インターネットは有効。 ・本にも思想が入っている。そのことを理解して、同じジャンルでも、たくさん本を読んでほしい。 ・教科書で学習し、図書館で幅を広げ、インターネットを活用するという手順がいいのではないか。
			○ 図書館活用の推進	○ 教師は、学校図書館を活用した授業に学期に1回以上取り組む。		○	○		○教師アンケートで、「図書館を活用した授業」は60%達成だった。				・事前に計画を立て、図書館を利用するところを考えながら授業を組み立てる必要がある。 ・毎月、図書館利用についての実施状況の確認を行う。	
		家庭	○ 家庭でのお手伝いの推進 【PTA保体部】	○ 保護者は、毎日決められた役割を児童自ら取り組めたかを確認する。		○			○保護者アンケートで「子どもが家のお手伝いに頑張っていた」に、87%が肯定的回答であった。				・『お手伝い週間』の感想では、「助かった」という声が多くあった。長期休業中に短期間（7日間）で取り組む方法が、やりやすかったようだ。振り返りをして、引き続き継続して行う。	
		地域	○ 読み聞かせの充実	○ 地域は、計画通り読み聞かせを実施する。			○	○	○2学期の読み聞かせを計画通り16回行うことができた。				・引き続き継続して行う。	
時間外在校時間の縮減【働き方改革の推進】	○ 1学期の時間外在校時間の月平均23時間以下にする。	学校等	○ 時間外在校時間の縮減	○ 月1回、運営委員会で時間外在校時間を把握する。 ○ 毎週金曜日を定時退庁日として取り組む。 ○ 月に述べ7時間45分以上の年休を取得する。		該当する項目に○			○出退勤管理により時間外在校時間の把握を実施し，毎月全員で確認した。 ○行事黒板を利用したり、個人的に声かけを行うなどして周知に取り組み、教職員アンケートで「金曜日の定時退庁に努めた」と答える職員が100%となった。 ○計画表を作成して年休の積極的な取得を呼びかけた。長期休業を含めると、月に延べ7時間45分以上の年休を取得した教職員は75%であった。	○対象職員8人の8～12月までの時間外在校時間の平均は、8月3.5時間、9月17時間、10月23時間、11月16時間、12月11時間となり、2学期の平均はひと月約14時間であった。	164.0%	4	○引き続き継続して取り組み、年休を取得しやすい職場づくりに努める。	・持ち帰り仕事は昨年度よりも減少している。新たに仕事が増えるのであれば、在校時間の減少は本末転倒。今後もいっそう努力を要する。